

令和6年2月15日(木)

## 我が町喜入のメヒルギ群落について

鹿児島市喜入町生見の国道沿いの海岸で米倉川の河口付近にメヒルギの群落があります。メヒルギは、マングローブ林をつくる常緑樹で、その果実が琉球（沖縄）のこうがい（かんざし）に似ているところから、リュウキュウコウガイとも呼ばれています。マングローブとは、熱帯および亜熱帯の、泥土の多く堆積する波のおだやかな入り江や河口につくられる森林のことです。干潮時には根もとが露出しますが、満潮時には海水につかります。喜入のメヒルギは、誰かが定植した移植説と種子が流れ着いて自生するようになった漂着説とがあります。実際は、正確なことはわかりません。我が国で自生しているメヒルギの北限であることから、国指定特別天然記念物として保護されています。

国が指定したのは、1952年（昭和27年）3月29日です。

日本国内でメヒルギの群落が見られるのは、屋久島、種子島、奄美諸島、沖縄などの、南の島々です。日本本土でメヒルギがある鹿児島市喜入以外には、南さつま市大浦町の大浦川河口付近でも群落があるそうです。大浦町のメヒルギ群落も、喜入と同じ北限付近に自生しています。

しかし、毎日メヒルギを目にしている方によると、年々メヒルギの数が減ってきているそうです。私たちができることは、何かないでしょうか？

国道226号線生見に、メヒルギ自生北限の地の看板が設置されています。誰でも、気軽に観察できるよう、観察ゾーンも設置されています。喜入に住んでいる皆さんですから、是非立ち寄って喜入の自然を感じてください。そして、私たちができることに地道に取り組んでいきましょう。